

GXの推進 ～気候変動問題への取り組み



北九州響灘洋上ウインドファーム全景

洋上風力建設のフロントランナー

北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事が完成、2026年3月営業運転開始

北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事は、北九州響灘地区の港湾区域内約2,700haに、風車25基(9.6MW級)を設置し、約220MWの発電を行う大規模洋上ウインドファームの建設工事です。当社は、海洋工事等①風車の基礎工事、風車の据付、ケーブル敷設などの海洋土木工事、②O&M^{※1}拠点港の建設工事)のEPCI^{※2}契約を締結し、2023年3月に工事に着手しました(事業者：ひびきウインドエナジー株式会社)。2025年8月31日、25基目の風車据付が完了し、2026年3月に営業運転が開始されました。

※1 O&M: Operation & Maintenance(運転・保守) ※2 EPCI: 設計(Engineering)、調達(Procurement)、建造(Construction)、据付(Installation)の略



① 風車基礎・海洋工事
着床式風車25基の基礎、風車据付など海洋土木工事を担当

施工者

五洋建設・日鉄エンジニアリングJV

② O&M 拠点港工事
本ウインドファームの運転・保守の拠点港を整備

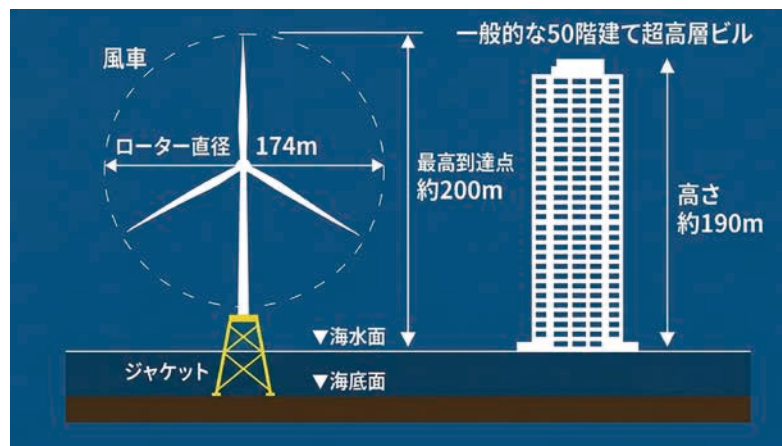
施工者

五洋建設・若築建設JV

計画の概要図
(出典：ひびきウインドエナジー株式会社ホームページ)



風車の据付状況(CP-16001)



日本の洋上風力建設のフロントランナー

我が国では、2050年カーボンニュートラル実現のため、洋上風力発電について2030年までに10GW、2040年までに30～45GWの案件形成を目指すという政府目標が設定されました。再生可能エネルギーの主力電源として洋上風力発電の供給拡大が期待されており、洋上風力建設の動きが全国で本格化しています。

このような状況の中、当社は「洋上風力建設のフロントランナー」として、本格化する洋上風力発電施設の建設需要を見据えた体制整備を積極的に推進しています。

3隻目のSEP船「Sea Challenger」アップグレード完了、台湾で本格稼働

当社とベルギーのDEME Offshore Holding NVによる合弁会社ジャパンオフショアマリン(出資比率51%)が所有する自航式SEP船「Sea Challenger」のクレーン吊能力の増強(900tから1,600t)、船幅の拡大、レグの延長等のアップグレードが2025年12月に完了しました。これにより当社はCP-8001(2018年完成、五洋建設所有)、およびCP-16001(2023年完成、PKYマリン^{※3}所有)と合わせて、3隻のSEP船を所有しています。自社船団で同時期に複数の洋上ウインドファームを建設可能な国内唯一の建設会社です。

「Sea Challenger」は2026年2月～8月、台湾の「Hai Long 3 Offshore Wind Farm」にて風車取付工事で稼働しました。

※3 PKYマリン：五洋建設、鹿島建設、寄神建設による合弁会社(出資比率：65%)

洋上風力関連作業船のラインアップ

風車据付			洗掘防止・作業支援
CP-8001  2018年完成 非自航(800t吊)／五洋所有	CP-16001  2023年完成 非自航(1,600t吊)／PKY所有	Sea Challenger  2014年完成、2025年12月改造完成 自航(1,600t吊)／JOM所有	CP-5001  2012年完成 自航(500t吊)／五洋所有
電力ケーブル敷設			非自航SEP船曳航・作業支援
CLV(ケーブル敷設船)  2028年完成予定 自航(ケーブル10,000t) 五洋・芙蓉総合リース共同保有	基礎施工(モノパイル) HLV(大型基礎施工船)  2028年完成予定 自航(5,000t吊) 五洋・芙蓉総合リース共同保有		かいこう  2021年完成 自航(6,000馬力)／KWS所有

※PKYマリン(五洋・鹿島・寄神)

※ジャパンオフショアマリン(JOM)(五洋・DEME)